

史跡 狭山池とともに

－1400年生き続ける文化遺産を守る－

平野 淳（大阪狭山市教育委員会歴史文化グループ）

1. はじめに

大阪狭山市は、大阪府の東南部、古代の河内国と和泉国の国境に位置している。古代からの国境は、現在も堺市と大阪狭山市の境となり、陶器山という陶器窯跡群中心地の一つが今も憩いの場として残っている。大阪狭山市の元は、昭和6年（1931）に2つの村が合併し狭山村となったもので、昭和26年（1951）に狭山町、昭和62年（1987）に「大阪狭山市」となった。町制施行時は9千人余りであった人口は、昭和42年（1967）年以降の狭山ニュータウンの大規模開発により昭和60年（1985）には5万人を超え、現在は5万8千人余りで推移している。

市域は11.92km²で、全国792市の中で777番目の大きさである。市内には、明治31年（1898）に開業した南海電鉄高野線の駅が3駅あり、線路が市域を縦断している。大阪狭山市は大阪市内へ通じるこの鉄道とともに、ベットタウンとして発展してきた。

市の財政規模は平成30年度一般会計当初予算が約

209億円、そのうち文化財関連予算は約7395万円余となっている。

2. 史跡狭山池の概要

狭山池は、平成27年（2015）3月に史跡指定を受けた比較的新しい史跡である。昭和57年（1982）に起きた水下的大規模な水害を受けて、昭和63年（1988）から平成13年（2001）まで、足掛け14年をかけたダム化工事が行われた。その際に文化財の総合調査を実施し、池中から築造当時の木樋、鎌倉時代の僧重源による改修碑、樋管に転用した石棺、慶長の改修時の木樋や遺構など多くの文化財が発掘されると同時に、溜め池の根幹となる北堤が、築造当時から残した状態で維持されていることが判明した。史跡の指定理由は（以下の引用部分は全て『史跡狭山池保存活用計画』からの引用）

飛鳥時代に築造され、その後各時代の改修を経ながら今日まで利用が継続している灌漑用溜め池である。発掘調査によって築造の工法、歴史

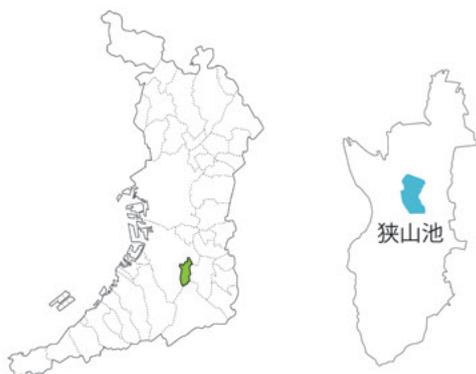


図1 大阪狭山市と狭山池の位置



図2 狭山池上空から水下を望む

的変遷も明らかとなり、飛鳥時代の木樋をはじめとする貴重な遺物も出土した。わが国古代以来の土木技術の歴史を理解する上で重要であると総括されている。

狭山池は現在、一級河川「西除川」の一部「狭山池ダム」(治水ダム)として下流域を水害から守っている。本来は、灌漑用溜め池として1400年前に築造されているが、水下の都市開発が進み、大正末には1,242ha余であった灌漑範囲は、現在478ha余までに減少している。

平成のダム化工事に伴い都市公園として整備された狭山池周辺は、毎日3,000人近い人が散歩やウォーキングなどを目的として訪れる市民の憩いの場所となっている。

3. 史跡狭山池の本質的価値

本計画の策定は、指定をうけた平成27年の7月から本格的な審議を開始している。史跡狭山池保存活用計画では

100年後、1000年後の史跡狭山池が、今と変わ

りなく水を湛え、水下を潤し、命を守り、人びとの憩いの場所となるように ①史跡狭山池としての価値を、適切かつ確実に保存し ②保護の方針を定めることで関係機関と調整を図りながら、維持し ③将来へ引き継ぐこと

を目的として策定している。

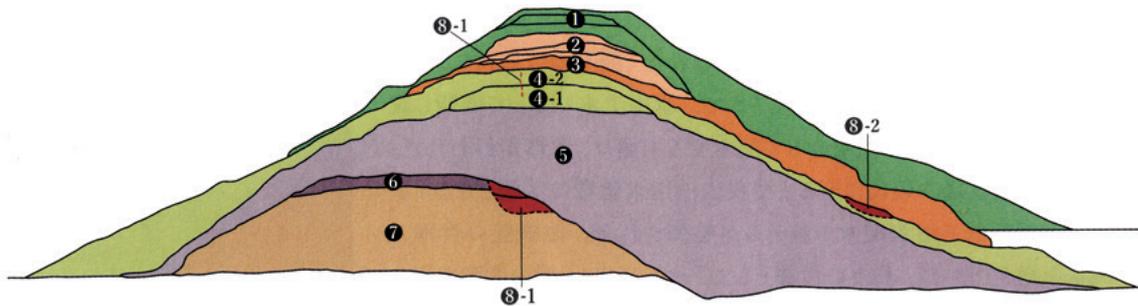
当時参考にしたのは、『史跡大坂城保存管理計画書』であった。重層的な歴史を持つ史跡として、一つの時代に特化した価値を認められたのではなく、連綿と続く時代の中で生き続けてきた事を評価されている、という点を学ぼうとした。しかし、時代により大きく姿を変える大坂城とは異なり、狭山池は1400年前に灌漑用溜め池として築造されて以来、その存在意義は一貫してあり続けている。

狭山池の本質的価値を議論する計画策定の初期段階で、すぐに「狭山池には、灌漑用溜め池として以外の存在意義がないのか。」「狭山池とは何か?」という事が問題になった。そして議論を続け、結論をだすまでに2年半をかけることになったのである。

導き出した結論は、表1のとおりである。

表1 史跡狭山池の本質的価値(特有の価値)とその他の諸要素

(1) 狭山池 特有の 価値を 構成する 諸要素	A. 史跡狭山池にあって現代まで続く、歴史的背景を持つ機能的要素	狭山池の持つ「灌漑」「治水」の機能 1400年間、狭山池が利用され続けてきた根幹となる要素
	B. 狭山池と一体となって、歴史的・機能的・文化的価値を構成する諸要素	池利用などにより存在する、歴史的背景を持つ様々な要素
	C. 狭山池の歴史的価値・機能的価値の説明に不可欠な動産資料	遺構・遺物・文献史料などを含む史跡狭山池の価値の説明に不可欠な動産資料
(2) その他の 諸要素	A. 狭山池の歴史的価値・文化的価値の説明を補完する諸要素	史跡狭山池の中及び周辺にあり、現在まで続く歴史的背景を持つ機能の維持に必要な要素
	B. 現在の狭山池の機能を維持するために必要な要素及び便益施設	現在の狭山池の持つ「治水機能」「灌漑機能」を維持するために必要な要素及び便益施設
	C. 周辺の環境を構成する要素	史跡狭山池の周辺に位置し、狭山池と関連を持つ要素
	D. 保護に有効でない要素	史跡狭山池及びその周辺にあり、史跡狭山池の保護に有効でない要素



- | | | | | |
|----|---------------|-------------|----------|----------------------|
| 凡例 | ① 明治・大正・昭和の改修 | ④-1 鎌倉時代の改修 | ⑥ 行基の改修 | ⑧-1 734年 奈良時代の地震の跡 |
| | ② 江戸時代の改修 | ④-2 室町時代の改修 | ⑦ 築造当時の堤 | ⑧-2 1596年 伏見大地震の填砂の跡 |
| | ③ 慶長の改修 | ⑤ 天平宝字の改修 | | |

堤にみる改修の歴史（『大阪府立狭山池博物館常設展示案内』の図に加筆）

図3 狭山池堤体断面の層序（府立狭山池博物館常設展示図録より転載）

（1）Aの本質的価値の根幹となる部分で見ると、「灌漑」「治水」以外に当初は「公園」要素も組み込まれていた。狭山池にとって「公園」機能とは何か。

この点について、もう少し詳しく述べてみると、狭山池の場合、築造以来灌漑用溜め池であり、水下水を水害から守って来ている。しかし、平安時代には「枕草子」に風光明媚な池として記載があり、江戸時代には名所図会にも載り、戦前から昭和末までは湖畔に遊園地が営まれ、現在では都市公園となっている。このような、狭山池の持つ名所としての側面は、果たして狭山池にとって本質的な価値になるのだろうか。

これは、重要な要素であると位置づけられた。しかし、築造時に存在したのではなく、後に付加された価値と判断し、築造当初からある機能とは分けて考えることになった。そして議論の末（1）Bに「文化的価値」という要素を加えることで、本質的な価値の一部に松や桜などの樹木の公園要素を組み込む事になった。

（1）Cの部分には、動産資料を要素としている。この点についても、意見が分かれることになった。史跡は、本来土地と一体となり保護されるものとなる。しかし、狭山池の場合、北堤に残る飛鳥時代からの堤体以外の遺構は、平成のダム化工事の際に異物として堤防の弱体化の要因となるため、狭山池博物館内に移築展示されている。また、それ以外にも慶長の改修以降、狭山池の池守を代々担ってきた家



図4 大正・昭和初期の狭山池北堤の松



図5 狭山池と遊園地（昭和50年ごろ）



図6 現在の狭山池（桜の季節）

表2 狭山池の構成要素および保存・活用・管理の方向性一覧

	史跡内			史跡外		
	市内	市内	市外	市内	市内	市外
A. 史跡狭山池にあって現代まで続く、歴史的価値を持つ機能的要素	灌漑用溜池要素	治水(ダム)要素	その他の要素	灌漑用溜池要素	治水(ダム)要素	その他の要素
	水 北堤 取水塔(第一取水塔) 第二取水塔	西陸常用洪水吐 東陸常用洪水吐 非常用洪水吐 南堤 東堤 西堤	電神祠 塚・松 橋	西陸川 三津尾川 太清池 池守田中家住宅 狭山池土地改良区施設	東陸川 副池(第二狭山池)	狭山池安益溜め池群 狭山池用水塔群
	(1) 狭山池特有の価値を構成する諸要素	大阪狭山市及び狭山池の歴史を伝える文化財として、維持管理を行う関係機関との調整を図りながら、保存活用を図る。	大阪狭山市及び狭山池の歴史を伝える文化財として、維持管理を行う関係機関との調整を図りながら、保存活用を図る。	大阪狭山市及び狭山池の歴史を伝える文化財として、維持管理を行う関係機関との調整を図りながら、保存活用を図る。	大阪狭山市及び狭山池の歴史を伝える文化財として、維持管理を行う関係機関との調整を図りながら、保存活用を図る。	大阪府・構成要素の存在する市と協力し、狭山池の歴史を伝える文化財として、所有者及び地域住民に対して保存活用に対する意識の醸成を目的とした啓発活動を行う。
B. 狭山池と一体となって、歴史的・機能的・文化的価値を構成する諸要素						
C. 狭山池の歴史的価値・機能的価値の顕在・潜在的な動産資料						
A. 狭山池の歴史的価値・文化的価値の説明を補完する諸要素						
(2) その他の諸要素						
C. 周辺の環境を構成する要素						
D. 保護に有効でない要素						



図7 池守田中家文書（狭山池博物館寄託）

（池守田中家）に残されていた膨大な数の絵図・古文書類も併せて（1）Cの中に組み込んだ。池守田中家文書なくして近世狭山池を論ずることはできず、狭山池の価値を説明するときに不可欠な資料だからである。

「本質的価値」という言葉の持つ意味と、史跡狭山池で使うことになった「特有の価値を構成する要素」という言葉にどのような意味を持たせるか。その点についても定義が必要であった。

計画の中で

その本質的価値の説明に不可欠な要素が、史跡外にも及ぶ他、現在も利用されている治水ダムである関係上、主要な遺構の一部が移築されるなど、一般的な史跡とは異なる視点が必要となった。（中略）史跡内、史跡外を含むこととし、併せてその歴史的価値の説明に不可欠な遺物や関連資料の動産資料を構成要素とし、本質的価値については「特有の価値」としてまとめると定義を進めた。

本質的価値の定義の部分で「構成要素が史跡外にも及ぶ」との一文がある。これは、狭山池自体が一級河川であることに由来するとともに、狭山池が灌漑用溜め池として単体で存在するのではなく、親池として数多くの子池・孫池、そしてそこに配水する水路を含めての存在である事を意味している。

表2は、構成要素をまとめた表である。



図8 狭山池博物館内に移設展示された出土遺物

ここに落ち着くまで、計画策定期間3年の内、およそ2年半を費やすことになった。1400年の歴史を支えてきた、すべてのものを余すことなく構成要素とできるように、努力してみた結果である。

4. 史跡狭山池の保存管理

さて、構成要素の検討と並行して史跡狭山池の保存に関わる各機関との調整を進め、現状変更の取り扱い方針と基準をまとめた。一級河川であるため、河川管理・治水ダムとしての管理は大阪府都市整備部・富田林土木事務所が中心となる。管理は大阪府であるが、ダムの根幹となる北堤の土地所有は国土交通省である。また、ダム周辺の土地所有は大阪府となるが、都市公園部分の管理は、市の公園緑地グループが行っている。そして、灌漑用水としての管理を担うのは狭山池土地改良区である。狭山池湛水直下の底地は、現在もこの土地改良区を構成する水下の財産区が管理している（表3）。

併せて、まちの宝、市民の宝と認識し市民団体も様々な活動を行い、狭山池の魅力発信・活性化を担っている。多くの担い手が、それぞれの思いを持って活動をすすめている狭山池が、史跡に指定されたため、今行われている活動の維持を前提に、協議を進めることになった。

「保存の方向性」冒頭には上に示した「非常災害時の対応」を特記した。河川管理（ダム管理）を担

表3 狭山池管理 根拠法令と管理者・管理団体

	根拠法令	管理者・管理団体	管理業務
史跡	文化財保護法	大阪狭山市	大阪狭山市教育委員会事務局 教育部歴史文化グループ
河川	河川法	大阪府知事	大阪府都市整備部河川室 大阪府富田林土木事務所河川砂防グループ
公園	都市公園法	大阪狭山市長	大阪狭山市都市整備部公園緑地グループ
水利	土地改良区法	狭山池土地改良区	狭山池土地改良区

【非常災害時の対応—必要な応急処置—】

【1】地震や豪雨等の非常災害時に、危険にさらされている生命・財産を守るための応急的な措置、「狭山池」の機能維持、「狭山池」のき損や滅失を未然に防止するために行う応急的な措置。

⇒「狭山池に対する応急措置」

【2】地震や豪雨等の非常災害時に、史跡狭山池の構成要素のき損や滅失を未然に防止するために行う応急的な措置。 ⇒「史跡 狭山池に対する応急措置」

【1】【2】の応急措置については、危険にさらされている生命・財産を守るための行為を優先し、措置を進めることができる。

図9 史跡狭山池 非常災害時の対応—必要な応急措置—

当する機関から、当たり前のことであっても明文化することで、より情報を共有できるという事を伝えられた。「危険にさらされている生命・財産を守るための行為を優先」と明記することは、その後、現状変更の取り扱い方針について協議を進める過程で、私たちの中でも判断基準となり、担当者側からの同意を得る時にも有効であった。

また、江戸時代には水下惣代とよばれた村々の代表が担ってきた用水の管理は、狭山池土地改良区が引き継いでいる。狭山池の水を農業用水として利用する人々にとって最も重要なことは狭山池の「水」が枯れないことである。狭山池とは何かという事を論じたとき「水」が枯れては狭山池ではないという点については、当初から異論は起きず、「特有の価値を構成する要素」の筆頭に挙げる事になる。しかしながら「水」を考えたときにその水はどこから来て、どこに流れる事になるのかということがまた問題となる。

これは、本計画の対象範囲を決める時にも議論の

対象となった。結果、図10のように大阪狭山市の市域をはるか超えた部分を示す事になった。ちなみに、オレンジ色の範囲は、狭山池から望む景観を対象範囲とするためのラインである。

以下は、本計画での対象範囲の定義である。

【最大の範囲（図上緑の範囲）】上流部は、狭山池ダムが集水流域。下流部は、狭山池の灌漑範囲。

（史跡狭山池の維持継承に関して、意識の啓発・協力の働きかけを行う範囲）

【中間の範囲】狭山池の堤に立って見える範囲、堤から500m程度及び大阪狭山市内。

（景観コントロールが必要な範囲）

【最小の範囲】史跡狭山池の範囲・狭山池公園の範囲・埋蔵文化財包蔵地狭山池の範囲。

（構成要素の保存を図る範囲）

狭山池にとって、景観は最も大切な要素の一つであるが、景観を構成する要素の多くは史跡外に及ぶ。いかに狭山池からの眺望を維持していくかについて

は、現在でも大きな懸案となっている。

用水を管理する狭山池土地改良区は現在、事務所を北堤西端に構える。農業用水を管理する団体が存在することが、史跡狭山池にとって重要である、という認識のもと史跡外の事務所も「特有の価値を構成する要素」としている。これは現在の狭山池を維持するすべてのものが、これからの狭山池の維持継承に必要である、という姿勢につながる。

灌漑用溜め池、治水ダム、都市公園という、それぞれの管理者による維持管理を継承しつつ、史跡狭山池の保護をどのように進めていくか。関係機関との連携を模索する状況が続いている。

5. 史跡狭山池の整備と活用

では、これから先の狭山池をどうしていくのか。狭山池自体は、平成のダム化工事の際に、周辺整備が行われ、周遊路・駐車場・ダムサイトミュージアムまで整備された後の史跡指定であったため、今後の整備活用という点の議論は、あまり活発ではなかった。

現在行われている様々な活用を維持するだけでも、かなりの労力を要するほど、狭山池には人があふれている。狭山池に通い、愛でて毎日写真を撮り続ける人、ランニング、ウォーキングの人が多く訪れ、狭山池の歴史を学ぶことのできる博物館もある。その状況で史跡狭山池の本質的価値を伝えるためにどのような事が考えられるのか。この点については、まだ模索中としか言うことができない。

ただ史跡狭山池として伝えたい価値の一つは、明確になっている。それは、築造された1400年前からほとんど変わることのない狭山池の北堤から望む風景である。大きな建物が建ち、商業施設が国道沿いに並び、色付きの大きな看板が木々の間から点々と見える。しかし、狭山池を訪れた時に、誰も狭山池を背にして外を見ようとはしない。狭山池の水面を介して広い空と水面の上に広がる大きな空間を堪能するのである。そしてその眺望の先に見える丘陵・山々は1400年変わっていないのである。



図10 史跡狭山池保存活用計画の対象範囲

大阪市のベッタタウンとして住宅開発が進み、田畑が減り続ける中で、何を守ることで史跡狭山池の価値を多くの人と共有することができるのか、これからの模索が続く。

6. おわりに一史跡狭山池とともに一

「史跡 狭山池とともに」は、昨年11月に開催したシンポジウムのタイトルになる。ここで、これからの狭山池の保存と継承について意見を頂戴した。その中でもやはり、5年後、10年後のみを考えるのではなく、今の行動が100年後、150年後にどのような影響を与えるのかを考えながら判断をしていく事の重要性を強く感じた。

自然災害が多発した今年、大阪狭山市にも台風21号が昭和36年（1961）の第2室戸台風以来の大きな被害をもたらした。各地で高潮や河川氾濫の被害が報告されている中、狭山池の水下ではダム化工事のきっかけとなった昭和57年（1982）の大水害と同量



図11 河内名所図会（狭山池部分）

の降水量があつたにも関わらず、洪水による被害は報告されなかった。狭山池ダムは、その機能を証明できた。余談となるが、この時でも100年に一度の水害に対応する非常用洪水吐は作動しなかった。

大雨、地震、漏水、破堤、早魃など、想定される災害は枚挙にいとまがない。狭山池を守り、災害から人々の命を守るための管理者がいる。水下の水田のために、用水を守る管理者がいる。そして、憩いの場をより良い場所とするために活動続ける人がある。

狭山池を未来へつなぐために、史跡狭山池の管理者として何をすべきなのか保存活用計画を作ってお、自問自答が続いている。

将来の目標・理想をもたなければ、現実になることはない。100年後の理想の狭山池はどのような形なのか、関係機関とともに未来の狭山池を共有していくことが今後の課題と考えている。

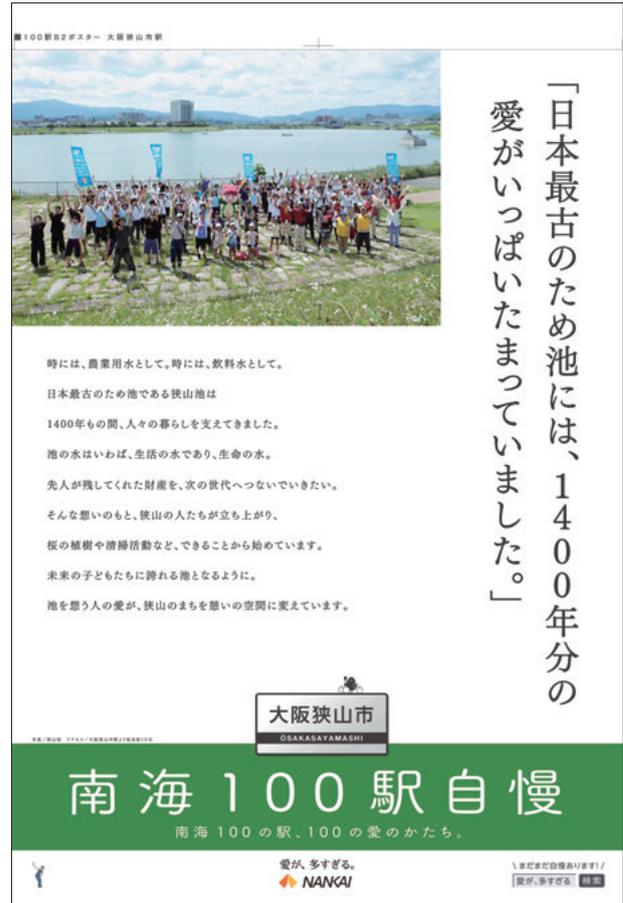


図12 南海電気鉄道株式会社PRポスター（2018年）